



アペルト09 西村有 paragraph

2018年10月6日(土)～
2019年3月24日(日)

若手作家の個展シリーズ「アペルト」。
一枚の絵画の中に複雑に重ね合わされた風景が作り出す、
いくつもの「物語」。

展覧会名	アペルト09 西村有 paragraph
会期	2018年10月6日(土) – 2019年3月24日(日)
開場時間	10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで) ※1月2日(水)・3日(木)は17:00まで
休場日	毎週月曜日(ただし10月8日、10月29日、12月24日、1月14日、2月11日は開場)、 10月9日(火)、12月25日(火)、12月29日(土)–1月1日(火・祝)、1月15日(火)、2月12日(火)
会場	金沢21世紀美術館 長期インスタレーションルーム
料金	無料
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800
主催	金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]

本資料に関するお問合せ

金沢21世紀美術館
事業担当: 野中祐美子 広報担当: 落合博晃、石川聡子
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp



展覧会について

西村有(1982-)は、日常の何気ない風景や行為、「生活の中の充足した時間」の断片を1枚の絵の中に複雑に重ね合わせることで一つの風景を構築します。それは、まるで小説家が言葉を紡ぎ、文章を構成し、一つの物語を作り上げる行為のようでもあります。ふと目にした風景、気持ちがいい空気。個人的で小規模だが、人間誰もそうしたものに支えられているのではないかと西村は言います。西村が描く対象は常に具象的でありながら、その独特でぼんやりとしたタッチや色調がどこか現実から遠く離れた場所かのような印象を与えます。

本展のタイトル「paragraph」は、「段落」とか「ひとまとまり」という意味で、一つの作品を一つのパラグラフとして見たときに、展示室全体に散りばめられた絵画をじっくりと見る／読むことで、西村が描きためてきた日常の豊かな時間と風景が物語となって語りかけてくるはず。いつまでもその空間で、西村の絵画と向き合い、いくつもの物語を想像したくなる、そんな展覧会となることでしょう。

本展では、13点の大小さまざまな新作を、鑑賞者が物語の中に入り込むかのような構成でご紹介いたします。



(scenery passing(out of town)) 2018



(a girl listening) 2018

作家ステイトメント

描きたいイメージと、制作の中で新しく派生していくイメージ。
 その間にある時間や奥行きの中に、自分の作品はあります。
 作品が出来上がってくる実感は、こちらの思いなどお構いなしに、いつも不意な方向から現れます。
 描きかけのキャンバスが集まってくると、複数のイメージが互いに補い合うように、中間に漂っている気配を浮かび上がらせます。普段は認識しないような、視界の端っこにある形。
 そんなイメージの存在に触れることができたなら、もう一度描きかけのキャンバスに手を入れていくことができます。
 今度は展覧会という作品の連なりの中で、散らばった景色を紡いでいきたいと思います。

作家プロフィール

西村 有 (にしむら ゆう)

1982年神奈川県生まれ、在住。2004年多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業。絹谷幸二賞受賞(2017年)、FACE2016損保ジャパン美術賞優秀賞受賞(2016年)、シェル美術賞保坂健二郎審査員奨励賞受賞(2013年)。「projectN 61 西村有展」(2015年、東京オペラシティアートギャラリー)での個展をはじめ、「あざみ野コンテポラリー vol.9 今もゆれている」(2018年、横浜市民ギャラリーあざみ野)などグループ展への出品多数。



3

展覧会の特徴

誰もが感じたことのあるような感覚を呼びおこす絵画たち

西村の作品には風景やある出来事、人物や動物などが描かれています。しかしそこに若干の違和感を感じます。彼は見たままを描くのではなく、その時彼が感じた感覚や空間、時間を作品に込めているのです。彼のはかない表現の中には透明感や流動感が、また多重露光や手ブレのように見える画面には時間さえ描き込まれています。そうした彼の作品からは誰もが感じたことのある感覚や風景が湧き上がります。



《red car》2017

4

具象絵画でありながら抽象的な中間領域の作品

絶妙なバランスをとる構図、描きすぎない筆致、漫画のように描かれた人物、何層ものレイヤー…。西村の作品は、具象絵画のようでありながら、出来事と出来事の間のような中間的な領域を描き出します。そこには逆に独自のリアリティが生まれています。彼の絵画からは、従来の具象絵画を超えた若い作家の新たな感覚の絵画の面白さを感じることができます。



《walking on sunset》2018

5

作家自身が作る巧みな展示空間の構成

西村は絵画空間の構築だけでなく展示空間そのものを作ることに長けています。昨年のKAYOKOYUKIでの個展では、ギャラリーの裏手倉庫から2階まで作品を展示し、そのスペースづくりも大きく評価されました。今回の展示では、小品から大型作品までをどのように配置し、そこにどんな「物語」を作り出すか、注目です。



(pick up) 2017

今、活躍目覚ましい若手ペインター。注目の個展。

2016年にFACE2016 損保ジャパン美術賞優秀賞を、また2017年には絹谷幸二賞を受賞するなど、西村は若手の登竜門とされる展覧会で多く評価されてきました。また2015年には東京オペラシティアートギャラリーで個展を開くなど若手の画家として頭角を表してきています。金沢21世紀美術館の展覧会では、約20点の新作によってその独自の作品世界を展開します。

「アペルト」シリーズとは

「アペルト」は、若手作家を中心に個展形式で紹介する展覧会のシリーズです。

金沢21世紀美術館は世界の「現在」とともに生きる美術館として、今まさに起こりつつある新しい動向に目を向けています。作家とキュレーターが作品発表の機会を共に創出し、未来の創造への橋渡しをします。

国籍や表現方法を問わず、これまで美術館での個展や主要なグループ展への参加経験は少ないが、個展開催に十分な制作意欲を持ち、アペルト実施以後のさらなる飛躍が期待できる作家を紹介していくものです。

※「アペルト (aperto)」は、イタリア語で『開くこと』の意味。

関連プログラム

クロージング・イベント

日時：2019年3月24日(日)

詳細未定。詳細は後日当館WEBサイトで発表します。

広報用画像

画像1～6を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。

画像お申し込みフォーム ▶ https://www.kanazawa21.jp/form/press_image/

【使用条件】

※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送りください。

※アーカイブのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。